

英語で読む倉田百三

The Priest and His Disciples: A Play

県立広島大学 馬本 勉
umamoto@pu-hiroshima.ac.jp

庄原出身の倉田百三（1891-1943）は、南区の丹那で代表作『出家とその弟子』を書き上げました。この作品は後にグレン・ショーによって英訳され、ノーベル賞作家のロマン・ロランに絶賛されたことで知られています。今回はその英訳を原文と対比させながら読み、百三の世界に迫ってみたいと思います。

私と百三



倉田百三は、明治二十四年庄原市で生まれ、大正から昭和にかけて活躍した有名な文学者です。

代表作である戯曲『出家とその弟子』は、大正五年から書き始めましたが、同年十一月、医師の勧めで静かな漁村であった丹那の民家（この隣にあった谷口花松氏宅）に身を寄せ、八カ月の療養中に病氣と闘いながら著作した作品で、二十五歳の時完成させました。

この作品は、当時ベストセラーとなり翻訳されてフランスの文豪ロマン・ロランも絶賛しました。

この碑は、この世界的名作が百三ゆかりの地、丹那で生まれたことを記念し、後世に伝え残すために建立しました。

倉田百三文学碑（広島市南区丹那町）

英学史研究と倉田百三、およびグレン・ショー

- ・野村勝美（1996）。「倉田百三とキリスト教：英訳本『出家とその弟子』をとおして」『英学史會報』19, 13-21.
- ・野村勝美（2001）。「倉田百三に宛てたロマン・ロランの手紙：原文の解説とその英語訳の試み」『英学史論叢』4, 11-18.
- ・野村勝美（2004）。「倉田百三の外国語にふれる：『愛と認識との出発』をとおして」『英学史論叢』7, 11-18.
- ・野村勝美（2010）。「ロマン・ロランの「序文」：仏語版『出家とその弟子』への」『英学史論叢』13, 47-18.
- ・野村勝美（2012）。「『出家とその弟子』の「序曲」：原文と英仏訳文との比較考察」平成24年度日本英学史学会中国・四国支部 第1回研究例会 研究発表資料（2012年5月26日）
- ・速川和男（2004）。「翻訳者としての Glenn W. Shaw」『東日本英学史研究』3, 10-18.

グレン・W・ショー没後 50 年

「欧亜（ユーラシア）芸術界の最も見事な典型の一つで、これには西洋精神と極東精神とが互いに結びついてよく調和している。この作品こそ、キリストの花と仏陀の華、即ち百合と蓮の花である。現代のアジアにあって、宗教芸術作品のうちでも、これ以上純粋なものを私は知らない。」

倉田百三『出家とその弟子』の英訳 *The Priest and His Disciples* (Glenn W. Shaw 訳) を読み、こう評したのは、フランスの文豪ロマン・ロランであった。倉田の『出家とその弟子』は大正 6 年の出版。旧制高校の学生を中心に広く読まれ、「青春の書」と呼ばれた。作品中の親鸞の語る言葉を、ショー氏の英訳とともに読んでみよう。

私たちの魂の真実をごらんください。私たちは愛します。そしてゆるします。他人の悪をゆるします。その時私たちの心は最も平和です。私たちは悪いことばかりします。憎みかつのろいます。しかしさまざまの汚れた心の働きの中でも私たちは愛を知っています。そしてゆるします。

“Look at the reality of our souls. We love. We forgive. We pardon others' faults. Then our hearts are most peaceful. We do but evil. We hate and curse. But in the midst of the diverse workings of our soiled hearts, we know love. And we forgive.”

「どちらがオリジナルなのかわからないくらい、日本語は英語からの翻訳のようにも読めてしまう」と言った友人がいる。確かにその通りだ。翻訳が出た年の『英語青年』（第 47 巻第 9 号、大正 11 年 8 月）に掲載された広告には、「一度氏の翻訳を原文と対照するものは其の一言一句も最後の落ち着きを得ざるものが無いのに驚く、又如何にして斯く忠実に原文の心持ちばかりでなく形までも移し得るかを驚異とせぬ者は無い。実に氏の翻訳は和文英訳の範例として天下一品と称すべきである」とある。

グレン・W・ショー氏は、1886 年 11 月に米国で生まれた。今年が生誕 125 年でもある。コロンビア大学を卒業後、1916 年来日。山口高等商業学校、大阪外国語大学などで英語教師を務め、新聞やラジオ放送にも携わった。日本文学の翻訳紹介に力を入れた（倉田のほか、菊池寛『籐十郎の恋』、二葉亭四迷『平凡』など）が、彼の翻訳には、山口高商での同僚、奈倉次郎の協力が欠かせなかったと言う。戦争の前年に帰国したが、戦後再び来日し、アメリカ大使館に勤務。1961 年に亡くなった。（速川和男(2004)。「翻訳者としての Glenn W. Shaw」『東日本英学史研究』3）

私が倉田の『出家』を読んだのは、青春後期に入ってからのことだ。彼の出身地である庄原に赴任したことと、作品を書き上げたのが私の生まれた町だと知ったからだ。

「恋と愛はどう違う？」こういうことを真剣に考えるのも「青春」だろう。親鸞の口を通して語られた言葉を、ショー氏はどう訳したか。心に残った箇所を引用する。

会ってくださいと恋人が言ってくる。自分も飛んで行きたいほどに会いたい。けれどきょうは朋輩が病気でねていて自分が看護してやらねばならない時にはどうするか？ 朋輩をほっておいて夢中になって会いに行くのが普通の恋だ。その時その朋輩を看護するために会いたさを忍び、また会おうと言って来た恋人も、ではきょう来ないで看護してあげてくださいと言って、その忍耐と犠牲とによって、自分らの恋はより尊いものになったと思ひ、あとではさびしさに耐えかねて、泣いて恋人のために祈るようならば聖なる恋と言ってもいい。そのとき会わなかったことは、恋を薄いものにしないで、かえって強い、たしかなものにするだろう。それが祝福というものだ。The loved one sends word, “Please come to me.” And you want to fly to her. But to-day your friend lies ill and you must nurse him; then what'll you do? To desert him and fly to an ecstatic meeting is the way of ordinary love. Then if for the sake of nursing that friend, you endure your desire to go, and the loved one who's sent word that she wants to see you says, “Then please don't come but stay and nurse your friend,” and, if thinking that by this endurance and sacrifice your love has become nobler, you afterwards, in the affliction of your loneliness, weep and pray for each other, that may be called holy love. Such a failure to meet doesn't weaken love, but rather makes it strong and true. That's happiness.

そこに恋と愛の区別がある。その区別が見えるようになったのはわしの苦しい経験からだ。恋の渦巻の中心に立っている今のお前には、恋それ自身の実相が見えないのだ。恋の中には呪いが含まれているのだ。それは恋人の運命を幸福にすることを目的としない、否むしろ、時として恋人を犠牲にする私（わたくし）の感情が含まれているものだ。

There lies the distinction between ordinary love and the love called charity. The true nature of ordinary love can't be seen by you who are now in the very center of love's whirlpool. A curse is bound up in love. It lies in this that the lover is not concerned to make happy the fate of his beloved; nay, rather, at times his selfish passion enters in to make a sacrifice of her.

英訳を音読して実に心地よい。残念なのは、ショー氏の翻訳本が古書でもなかなか手に入らないことだ。いつか大学生用の英語教科書として復活させたいと思いながら年月が経ち、気がつくとならば翻訳したショー氏の没後 50 年を迎えた。

著作者の「没後 50 年」は、作品の利用可能性を大きく広げる。ショー氏の残した作品を学ぶ機会が増えることを期待したい。

(馬本 勉, 『英學史論叢』 14 (2011), 41-42.)

グレン・ショー (Glenn W. Shaw 紅蓮尚)

1886 年 11 月 19 日 米国ロサンゼルス生まれ。1910 年コロンビア大学を卒業、1916 年来日。大阪高等商業学校、市岡中学校、今宮中学校、山口高等商業学校、大阪外国語大学などで英語教師として教鞭を取る。朝日新聞大阪支社の囑託、JOBK (日本放送協会大阪放送局) の放送も行う。日本文学の翻訳紹介 (倉田百三『出家とその弟子』、菊池寛『籐十郎の恋』、二葉亭四迷『平凡』など) に力を入れた。太平洋戦争の前年に米国へ帰国、戦後再び来日し、アメリカ大使館勤務。アメリカに押収されていた「外務省記録」の返還にあたり、マイクロフィルム化の資料選別を指揮。1957 年に米国へ帰国。1961 年コロラド州で永眠 (74 歳)。勲三等瑞宝章。

The Priest and His Disciples: A Play INTRODUCTION

In Japan to-day, as indeed in all lands, there are many people who cannot believe in anything, and Kurata offers them in story form what he believes to be the only reasonable attitude toward life. His story is packed with anachronisms and errors of fact. His Shinran is not the historical Shinran; some of the words he puts into Shinran's mouth were surely never spoken by anybody in Kyoto in the thirteenth century. He has simply taken a great and admired teacher whose heart looks to him like his own and, without violent wrenching, made him the vehicle for the expression of his own convictions.

(★百三の信念と、親鸞)

Some Buddhist critics have avowed that Shinran must be weeping in his grave at the picture Kurata has drawn of him. Some foreign Christians will surely call parts of the book deliberate steals.

(★草葉の陰で・・・)

I have limited myself to the task of making a faithful translation of the words of the author. Where the text contains expressions employed in Christian phraseology, I have tried carefully not to read into them either more or less than their natural content. *Hitsuji* should certainly be rendered "sheep" despite its unnatural use as a Japanese religious metaphor, but whether *doji no mure*, literally "a bevy of boys", the *doji* of which is a word ordinarily used to designate the youths who wait upon saintly persons in the East, should be turned into the Hebrew word "cherubim," is at least open to question.

(★宗教観と翻訳)

★僧一 考えてみてください。静かに、心を落ち付けて。あなたは興奮してられる。恋は知恵者の目をも曇らすものだでな。私はお寺のため、法のためを思わずにはいられませぬ。また何百という若いお弟子たちのことを慮らねばなりませぬ。あの迷いやすい羊たちの群れをな。若い時の心はわしも知っている。あなたが女を恋しく思われるのを無理とは思ひませぬ。

First Priest. Please think. Calmly and composedly. You're excited. Since love blinds even the eyes of wise men, I can't but think for the temple and the law. Besides, I must take into consideration hundreds of young disciples. That flock of sheep easily lead astray. I understand the heart of youth. I don't think it unnatural that you should find women lovely.

★童子の群れ (天に現わる。歌を唱う)
すべての創られたるものに恵みあれ。
死なざるもののめぐし子に幸いあれ。

童子の群れ (消ゆ)

(*Cherubim appear above and sing.*)

Cherubim. Blessed be all creatures on earth,
Joy be to the Immortal's dear children.

(The Cherubim vanish.)

I am indebted to the author for his kind permission to publish this translation and to my friend かね and neighbor, Mr. Nagura Jiro, for the invaluable assistance that makes me believe I have approached accuracy in my work.

Glenn W. Shaw.

Yamaguchi, June 3, 1922.

(★山口高商の同僚・奈倉次郎の協力)

奈倉次郎 (1872~1947)

伊豆の生まれ。韮山の伊豆学校や東京の錦城学校に学び、1896年築地立教学校の英語教師。1900年文検合格。1908年山口高商教授。1921年文部省留学生。1932年退官。編著は数多く、英語教科書や青年英文学叢書など、広く読まれた。

英訳出版の紹介

◆R. F. (福原麟太郎)「寄贈の新刊書」『英語青年』47.9(大正11年8月)

“The Priest and His Disciples” by Kurata Hyakuzo, Translated by Glenn W. Shaw.

山口高商のショオ氏が、倉田百三の「出家とその弟子」を訳したもの。羽二重表紙の立派な装丁で、印刷も上等。原文なしで246頁、六幕の“reading drama”である。江湖にすすめて然るべき好い翻訳だと思う。

少しばかり見本を出して置く。これは第四幕第二場の一部である。

浅香〔涙ぐむ〕 よくよく真面目な熱いお心だわね。

かへで 唯圓様はそれはまじめよ。私と遇っている時でもどうかすると直ぐ説教のやうな堅い話になるのよ。私はまたそのやうな話を聞くのがうれしいの……

浅香〔ほほえむ〕 それでまだ一度も何しないの。

かへで〔まじめに〕 えゝ其の様な事は一寸もないのよ。

浅香 ほんとにあのやうな人はあるものではない。よくしてあげなさいよ。

かへで それは大切にしますわ。私はもつたいないと思つてみますわ。

Asaka (tearfully). His is indeed a sincere and warm heart.

Kaede. Yuien Sama's sincere. Even when with me, sometimes his talk becomes serious as a sermon. And I like to listen to such talk....

Asaka (smiling). Then haven't you done anything yet?

Kaede (seriously). No. There's nothing of that kind.

Asaka. Really there's not another man like that in the world. Treasure him.

Kaede. I do. I feel unworthy.

(東京神田錦町三丁目 北星堂発行 ¥2.50) — R. F.

◆北星堂広告『英語青年』47.9(大正11年8月)

倉田百三氏原著 グレン・ダヴリユー・ショー英訳『英訳 出家とその弟子』

四六判, 装幀羽二重, 天金函入 定価貳圓五拾銭 送料十五銭

ショー氏の日本に対する同情と理解と日本趣味日本文学の愛好と真実の日本を西洋に紹介せんとする熱誠とは既に普く人の知る所である。更に氏が独特の技は翻訳の精緻巧妙な点である、一度氏の翻訳を原文と対照するものは其の一言一句も最後の落着きを得ざるものが無いのに驚く、又如何にして斯く忠実に原文の心持ちばかりでなく形までも移し得るかを驚異とせぬ者は無い。実に氏の翻訳は和文英訳の範例として天下一品と称すべきである。

創作界の天才倉田百三氏の心血、翻訳界の鬼才グレン・ショー氏の努力、両才の共鳴、文情の融合、筆致の呼応、苟も芸術の秘義を知らんとせねばならぬ。既に原著を一読したるものもしからざるものもこの流麗なる英訳を一読すべきである。

英訳『出家とその弟子』表現集

◆序曲

[人間と顔おおいせる者]

Man: I would play in the forests of worldly passions. I would live a thousand, nay, ten thousand years.

◇ ◇ ◇

Man: I can no longer doubt the existence of permanent things. I'm surely controlled by some power. But I'm satisfied that I'm controlled with kindness.

人間：わしは煩惱の林に遊びたい。千年も万年も生きていたい。

人間：たしかなものがあることは疑われなくなりだした。私はたしかに何物かの力になだめられている。けれど恵にさだめられているような気がする。

◆第一幕 12月 雪の夜、日野左衛門屋敷

松若（後の唯円）（11）、母・お兼、父・日野左衛門
親鸞（61）、慈円、良寛の一行

[親鸞と日野左衛門]

Shinran: Look at the reality of our souls. We love. We forgive. We pardon others' faults. Then our hearts are most peaceful. We do but evil. We hate and curse. But in the midst of the diverse workings of our soiled hearts, we know love. And we forgive.

親鸞：私たちの魂の真実をごらんください。私たちは愛します。そしてゆるします。他人の悪をゆるします。その時私たちの心は最も平和です。私たちは悪いことばかりします。憎みかつのろいます。しかしさまざまの汚れた心の働きの中でも私たちは愛を知っています。そしてゆるします。

◆第二幕 15年後・秋の午後、西の洞院御坊

親鸞（75）、若松改め唯円（25）

[親鸞と唯円]

Yuien: What's love like?

Shinran: It's a painful thing.

◇ ◇ ◇

Yuien: Then do love and faith go hand in hand?

Shinran: Love is a road leading to faith. If men are earnest in their pure and honest desires, they'll all enter into religious consciousness. When a man loves, his heart's wondrously purified. He understands the grief of human life. He touches terrestrial fate. Then faith's not far off.

Yuien: Then is it all right for me to love?

Shinran: Your way of asking is naive. I won't say whether it's good or bad. If you love, you may love. Only love seriously and straight-forwardly.

唯円：恋とはどのようなものでございましょうか。

親鸞：苦しいものだよ。

唯円：では恋と信心は一致するものでございましょうか。

親鸞：恋は信心にはいる通路だよ。人間の純な一すじな願いをつき詰めて行けば、皆宗教的意識には入り込むのだ。恋するとき人間の心は不思議に純になるのだ。人生のかなしみがわかるのだ。地上の運命に触れるのだ。そこから信心は近いのだ。

唯円：では私は恋をしてもよろしいのですか。

親鸞：お前の問い方は愛らしいな。わしはよいとも悪いとも言わない。恋をすればするでよい。ただまじめに一すじにやれ。

Shinran: I couldn't but wonder if there wasn't some way to love and yet be saved.

Yuien: On the whole, of all sins, there's none so bad as hypocrisy, is there? Once you said that the hypocrite is farther from the Buddha than the murderer, didn't you?

Shinran: Yes, just that. Farther from the grace of Buddha than the evil doer of a hundred wrongs who feels his guilt is the hypocrite who piles up petty deeds of charity and doesn't recognize his own sin. Buddha saves us knowing that we are bad. For his salvation is for sinners.

親鸞：恋をしても救われる道はないかと考えずにはいられなかった。

唯円：およそ悪の中でも偽善ほど悪いものはないのですね。あなたはいつか偽善者は人殺しよりも仏に遠いとおっしゃいましたね。

親鸞：そのとおりだ。百の悪業に催されて自分の罪を感じている悪人よりも、小善根を積んでおのれの悪を認めぬ偽善者のほうが仏の愛にはもれているのだ。仏様は悪いと知って私たちを助けてくださるのだ。悪人のための救いなのだからな。

◆第三幕 秋の日暮れ、三条木屋町 松の家／親鸞聖人居間

親鸞の息子・善鸞 (32)、遊女・浅香、遊女・かえで (16)、唯円、親鸞

[善鸞と唯円]

Yuien: You suffer deep anguish unknown to me. A noble conscience beats in your words. Nay, I feel as if I've been listening to a noble sermon.

Zenran: No, I stand before you a devil. I'm saddled with a life of destruction. Please pity a soul cursed with the inability to believe.

唯円：あなたは私などの知らない深い苦しみを持っていていらっしゃいます。あなたの言葉には尊い良心が波うっています。私はむしろ尊い説教でも聞いているような気がいたします。

善鸞：いいえ。私は一人の悪魔としてあなたの前に立っているのです。私は滅ぶる運命を負わされているのです。信ずることのできない呪われた魂をあわれんでください。

[浅香と善鸞]

Asaka: You praised, then, my sacrifice for my poor father and mother. You said, "Bear your troubles for the sake of the happiness of others."

Zenran: You give me back my very words!

浅香：その時あなたは私があわれな父母の犠牲になっていることをほめてくださいました。他人（ひと）をしあわせにするために、苦しさを忍べとおしえてくださいました。

善鸞：お前はわしの言葉をそのまま繰り返すのだ。

[親鸞と唯円]

Yuien: I've never seen a man so lonely-looking before.

Shinran: The loneliness of human life is not such a shallow thing as to yield to sake and women, you see. Many weak men turn to sake and women when they're lonely. And they're made more and more lonely.

唯円：私は一人の人間があのようにさびしそうにしていたのを見たことはこれまでありませんでした。

親鸞：人生のさびしさは酒や女で癒されるような浅いものではないからな。多く的人是さびしい時に酒と女に行く。そしてますますさびしくされる。

◆第四幕 1年後・春の午後、黒谷墓地／浅香居間
唯円、かえで

[唯円とかえで]

Yuien: How long that half month has been!
And all the while, I've thought of nothing but
you.

Kaede: And you've not been out of my mind
for a moment. Times without number has
my love made me want to fly to you instantly.
But I was without resource. I was beside
myself with impatience.

Yuien: And I, even when I'm reciting the
sutras at the temple, am absent-minded and
thinking of nothing but you.

唯円：その半月の長かったこと。私はその間あ
なたのことばかり思い続けていました。

かえで：私もあなたのこととはつかのまも忘れた
ことはありません。恋しくて、すぐにも飛んで
行きたいことが幾度あったかしれません。でも
どうすることもできないのですもの。私もどか
しくてたまりませんでしたわ。

唯円：私もお寺でお経など読んでいても、ぼん
やりしてあなたのことばかり考えているのです。

◇ ◇ ◇

Kaede: It was a letter from you! How
delighted I was! I read it slowly syllable by
syllable. I hated to come to the end.

かえで：あなたのお手紙なのでしょう。どんな
にうれしかったでしょう。私は一字ずつ、たま
いたまい（賜ひ賜ひ）読みました。読んでしま
うのが惜しいのですもの。

[浅香とかえで]

Asaka: Really there's not another man like
that in the world. Treasure him.

Kaede: I do. I feel unworthy.

浅香：ほんとうにあのような人はあるものでは
ない。よくしてあげなさいよ。

かえで：それはたいせつにしますわ。私はもっ
たいたないと思っていますのよ。

◆第五幕 1ヵ月後・晩い春の夕方、本堂／親鸞聖人居間
親鸞、唯円、僧

[僧と唯円]

Yuien: I can't possibly think that love's bad.
If it's bad, why do tears and thankfulness go
along with its emotions? My heart of love
for her is filled with sincerity. Love flows
shining through my breast. Warm gladness
drenches all my body. I feel that now, indeed,
I live. Ah, if you only knew how truly we
love each other!

唯円：私はどうしても恋を悪いものとは思われ
ません。もし悪いものとしたらなぜ涙と感謝と
がその感情にともなうのでしょうか。あの人を思
う私のこころは真実に満ちています。胸の内を
愛が輝き流れています。湯のような喜びが全身
を浸します。今こそ生きているのだというよう
な気がいたします。ああ、私たちがどんなに真
実に愛しあっているかをあなたがたが知ってく
ださったら！

[親鸞と唯円]

Shinran: The loved one sends word, "Please come to me." And you want to fly to her. But to-day your friend lies ill and you must nurse him; then what'll you do? To desert him and fly to an ecstatic meeting is the way of ordinary love. Then if for the sake of nursing that friend, you endure your desire to go, and the loved one who's sent word that she wants to see you says, "Then please don't come but stay and nurse your friend," and, if thinking that by this endurance and sacrifice your love has become nobler, you afterwards, in the affliction of your loneliness, weep and pray for each other, that may be called holy love. Such a failure to meet doesn't weaken love, but rather makes it strong and true. That's happiness.

◇ ◇ ◇

Shinran: There lies the distinction between ordinary love and the love called charity. The true nature of ordinary love can't be seen by you who are now in the very center of love's whirlpool. A curse if bound up in love. It lies in this that the lover is not concerned to make happy the fate of his beloved; nay, rather, at times his selfish passion enters in to make a sacrifice of her.

親鸞：会ってくださいと恋人が言うてくる。自分も飛んで行きたいほどに会いたい。けれどきょうは朋輩が病気でねていて自分が看護してやらねばならない時にはどうするか？ 朋輩をほっておいて夢中になって会いに行くのが普通の恋だ。その時その朋輩を看護するために会いたさを忍び、また会おうと言って来た恋人も、ではきょう来ないで看護してあげてくださいと言って、その忍耐と犠牲とによって、自分らの恋はより尊いものになったと思い、あとではさびしさに耐えかねて、泣いて恋人のために祈るようならば聖なる恋と言ってもいい。そのとき会わなかったことは、恋を薄いものにしなくて、かえって強い、たしかなものにするだろう。それが祝福というものだ。

親鸞：そこに恋と愛の区別がある。その区別が見えるようになったのはわしの苦しい経験からだ。恋の渦巻の中心に立っている今のお前には、恋それ自身の実相が見えないのだ。恋の中には呪いが含まれているのだ。それは恋人の運命を幸福にすることを目的としない、否むしろ、時として恋人を犠牲にする私（わたくし）の感情が含まれているものだ。

◆第六幕 15年後の秋、善法院境内／親鸞聖人病室

親鸞（90）、唯円（40）、勝信（かえで）（31）、善鸞（47）

[親鸞と唯円]

Shinran: I've lived my whole life perplexed in the forests of worldly passions and rising and sinking in the sea of affections. Ceaselessly calling on the name of Buddha, I've fought against the impulses of my karma.

親鸞：わしは一生の間煩惱の林に迷惑し、愛欲の海に浮沈しながらきょうまで来た。絶えず仏様の御名をよびながら、業の催しと戦って来た。

[親鸞と善鸞]

Shinran: Do you believe in Buddha? Don't refuse his mercy. Say you believe. Give peace to my heart on the day my soul returns above. All you have to do is receive it.

Zenran: My wretchedness – I don't know. I can't decide.

Shinran: Oh.

◇ ◇ ◇

Shinran: That's all right. Everybody's saved. It's a good and harmonious world. Oh, peace! The farthest, the deepest. Namu Ami Dabutsu.

親鸞：お前は仏様を信じるか。お慈悲を拒んでくれるな。信じるといってくれ。わしの魂が天に帰る日に安心をあたえてくれ。ただ受け取りさえすればよいのじゃ。

善鸞：わたしのあさましさ・・・わかりません・・・きめられません。

親鸞：おお。

親鸞：それでよいのじゃ。みな助かっているのじゃ・・・善い、調和した世界じゃ。おお平和！もっとも遠い、もっとも内の。なむあみだぶつ。

本日の講座のウェブサイト

<http://www.pu-hiroshima.ac.jp/~umamoto/hict2012/>